

令和7年度 能登半島地震復興セミナー 第5回アンケート

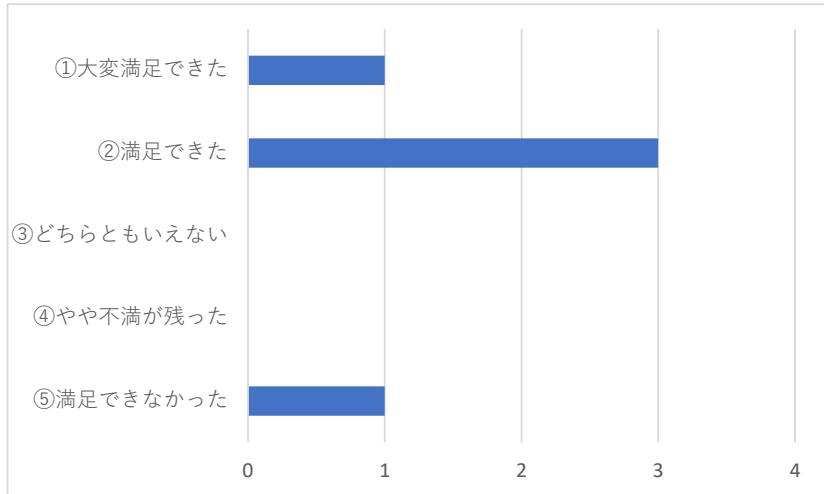
【日時】令和7年11月14日（金）15:00から16:00

【開催】オンライン・オンデマンド

【タイトル】平常時と災害時の生活環境と社会のインフラ施設

【講師】仲村 成貴 教授（日本大学 理工学部 まちづくり工学科）

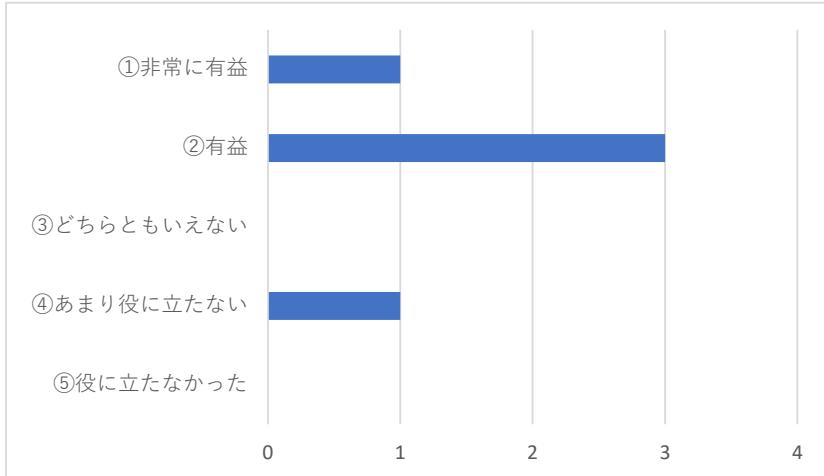
1. 講演はいかがでしたか。



2. 設問1の回答について、よろしければ、その理由を具体的にお書きください。

- ・ 2040年問題に向けた社会の構造、課題点を理解することができた。
- ・ 大変分かりやすい内容でした。15分残しの講演でしたので、能登の社会インフラの現状やこれまでの成果と課題についても紹介できる範囲でお知らせしていただけたと嬉しかったです。
- ・ 社会インフラ施設への関心が足りない市民へどのように周知するかという内容と復興支援セミナーとの関連が疑問。暑い中寒い中、平時のメンテナンスも災害後の復旧作業も感謝しかない。どの分野も平時から地道な努力をしてくださる方たちに市民生活が支えられているのだと思います。佐川氏が最後に提案されたことが市民への周知になると共感しました。

3.被災地の現状を知るため又は復興のために役立つものでしたか。



講演内容やセミナー運営等で、良かった点、不満足な点、感想、お気づきになった点などございましたら、ぜひお書きください。

・インフラの老朽化が進んでいることは予測され報道されているが、それについて広く知られていない事実が分かった。インフラ機能の低下は、災害非難時にも被害を拡大させるリスクがあることは重く受け止めなければならない。既に出来ている物を作り直したり、継続するには莫大な資金と人材の確保が必要である。地域の生活基盤を支えている建設会社が、N P O法人、ボランティア団体などと同程度に認知度を上げるような活動ができれば、若手人材が集まり魅力ある職種になっていくと感じた。実際新潟中越地震の際には、電気は比較的早く復旧したが点いた瞬間には本当にほっとしてようやくお風呂に入ろうか（それまではシャワーのみで入浴していた）という気になった。こういった時でなければ湯水のごとく電気を使っていてありがたみを感じることはなかったように思う。降雪期の災害であれば、なおさら甚大な被害が発生するだろうと想像するのも耐えがたくなる。久しぶりにこのような事を考えてみるよい機会となった。ありがとうございました。

・社会インフラで助けていただいた中に、神戸市からのバキュームカーやゴミ収集車の姿がありました。平常時には溜め置きの水でし尿を流せますが、災害時には下水道や浄化槽が壊滅してできません。食べていなくても我慢していくものではありますので、道ですれ違うたびに頭が自然と下がりました。自治体で保管している重機があっても、みんな被災していますし、道路が寸断されいたら職員が車庫までたどり着けないと思います。重機を見ながら、オペレーションできたらな、災害時（大雪も）に特例で動かしてもいいように講習してもらえたな と思っていました。川や海の水位がいつも道路や歩道すれすれまであります。大潮の時は冠水しました。仮設暮らしは続いています。待っているだけ生活の見通しがたちません。コンソーシアムのセミナーを石川県全体のパブリックビューイングで流せるようになると嬉しいです。

・演題と共にセミナーの内容を簡単にまとめて紹介して欲しい。それを参考に受講の判断材料にしたい。